

篠原湘南クリニックの軌跡 1 - 3 篠原裕希理事長インタビュー

本年クローバーホスピタル開設20周年を迎えます。地域と職員のために進化を続ける病院について篠原理事長が熱く語りました。（3回シリーズ最終回）

時代を先取り進化、高齢者医療のNO.1を目指して

2004年に全120床で医療療養・介護療養病床で開院。その後、介護療養を廃し20床の回復期リハビリテーション病床を組み込みました。土居忍PTが「当院は日本で一番小さい回復期病棟です！」と発表していて、「そんなこと言わなくて良いやろ〜！」とコケましたね（笑）。

常に国の方針に合わせて病床を改編し、2014年に地域包括ケア病棟を始め、全170床まで増床しました。地域住民の健康を守り続けるためには、当然経営を安定させ職員にお給料を払わなくてはなりません。そのためにさらなる進化を続けます。地域医療構想に沿い、急性期病院からの転院・在宅からの入院を強化し、地域の高齢者救急を担っていきます。ここで必要とされるのは多くの病気を抱える高齢者を診ることができる総合診療医です。そして長谷川看護部長が言う「病棟・在宅医療・入退院支援が三位一体」となり患者さんを支援する。これができれば日本の高齢者医療のトップランナーとなれるはずです。

いかがでしたか。篠原理事長の医師として経営者としての熱い思い、また地域の高齢者医療を担う病院として存在し続けるためにこれからも進化を続けていく決意を感じたインタビューでした。4月号からは鈴木勇三院長へインタビューのたすきを渡していきます。ご期待ください。

藤沢市家族介護者教室を全3回開催～認知症・在宅医療・ACP～

藤沢市委託事業として、クローバーホスピタル・当法人介護老人保健施設のクローバーヴィラで家族介護者教室を開催しました。どの会も受講者から質問がたくさんありご好評でした。



もしバナゲームの様子

若木美佐医師の回では人生の終末期とACP（アドバンスケアプランニング）についての話のあと、全員で「もしバナカードゲーム」を行い、自身のもしもの時についてそれぞれの思いを語り合いました。石渡医師の回では在宅療養に必要な医療介護サービスの説明、ひろき訪問看護ステーション小島麻衣子管理者の「訪看さんてなあに」の講演も行い、「訪問看護の重要性について良く分かった」との声もありました。クローバーヴィラは、「食事から認知症を予防しよう！！」

のテーマで佐藤愛介護支援専門員と熊澤裕子管理栄養士が講演しました。

医療者側も市民の皆さんのご意見やご要望を知る機会として大変重要な機会でした。住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な情報を今年もたくさん発信し続けていきます。



当院や在宅療養について講演する石渡副院長



訪問看護の質問に答える小島管理者



佐藤介護支援専門員(右)熊澤管理栄養士(左)



ひろき訪問看護ステーション



通所リハビリテーション



クローバー居宅介護支援事業所